

# 小中学校とSDGs 学校での災害対策



## 普段からSDGsを意識して

SDGs（持続可能な開発目標）は、新聞やテレビでも紹介されるようになりましたが、「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんなが2030年までに解決していこう」という計画・目標のことです。市内の小中学生は、SDGsについて授業で学習するほか、普段の学校生活の中でもSDGsを意識して行動していくようになりまりました。

今回は、学校でのSDGsの取り組みの中から中学校の災害対策について紹介します。

## 災害時に地域へ貢献できる生徒に

SDGsでは、安全で災害に強く、災害など

があっても早く回復できる持続可能なまちづくりが目標の一つとされています。

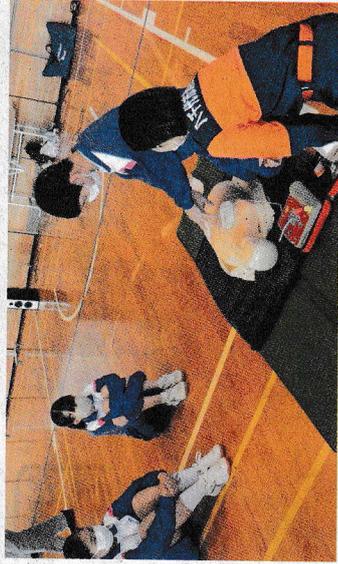
旧阿蘇中学校（現阿蘇米本学園）では、昨年度消防職員からAEDを使った救命方法を、市役所危機管理課職員から防災倉庫にある災害用仮設トイレの設置方法や担架での搬送方法についての講義を受けました。

また、八千代市社会福祉協議会とパートナーシップ協定を締結している八千代中・大和田中・八千代台西中・東高津中・阿蘇米本学園では、地域住民やボランティアも参加し、地域にどのような人が住んでいて、どのような危険箇所があるかを把握したり、地域の災害を想定した対処法や、学校が避難所になったときの運営方法を考えました。

これらの取り組みは、大規模災害が起きた

ときに、地域住民と連携・協働して被災者の支援活動を行う「共助」につながります。

市内の中学校では、災害が起きたとき、それぞれのコミュニティで中心を担う学校・生徒となれるよう、地域へ貢献できる生徒の育成を目指し、防災教育にも力を入れています。



▲旧阿蘇中学校の生徒が消防職員からAEDを使った急救命講習を受講している様子

お問い合わせは  
教育委員会 指導課  
☎481-0301へ